

命の神 熊野神社 はだか祭り

□祭礼日/毎年11月3日(祝日) □場 所/今出熊野神社

□時 間/午前11時30分～

11:30～子供相撲奉納

13:00～裸奉納

14:30～こけら御供・福引餅まき



はだか祭りのいわれ

熊野神社は、亀山天皇（1259～1274）の時代に今の社より2km奥（位知山ともいう）の神籠り滝と言う所へ紀州の熊野神社（熊野権現）から分霊を勧請し、其の後長禄三年（1459）に現在の地に至ります。故に今出権現とも称します。

命の神とも崇められ、往古は、遠阪・山垣・中佐治の三ヶ村をはじめ神楽谷の四ヶ村・柴村（兵庫県朝来市山東町）からも健康長寿を願う参詣者が訪れ、現在も、各地より病氣平癒をご祈願に参詣されます。

はだか祭りは、毎年11月3日の熊野神社秋季例大祭で奉納され各地から加護をうける人や、うけた人々がお礼祭りをされます。

神事は、裸になり腰に晒しを巻き「ヨイサ」「オイサ」の掛け声勇ましく、本殿と舞堂の間を足踏み鳴らしながら七回半駆け足で往復し、続いて神宝奉還の神事の後を追って舞堂を三回めぐり、のち御幣を奪い合い身の守りとして持ち帰ります。

その起源は明らかではありませんが、「田踏み」を思わせるしぐさから鎌倉時代と考えられます。

引続き、御神饌の赤飯を栗の木でつくった御神札に挟んだ「こけら御供」をやぐらの上から参拝者に撒きます。煎じお茶としていただくと、頭痛・風邪などに効き長生きするといういわれがあります。